

KSK 湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞) 広報73号

編集責任者: NPO 法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 相川 裕
事務所: 〒253-0002 神奈川県茅ヶ崎市高田5-3-11 ジュネスナカダ2-208
電話・FAX: 0467-81-7660 直通電話 090-4937-4904 定価 30円
ホームページ: <http://www.npo-snet.com> eメール: info@npo-snet.com



「翔の会」との協働会議

当法人のオンブズマン活動は、告発型ではなく、利用契約書でも第1条(目的)に「甲は、本契約に基づいて乙に対しオンブズマン活動を利用することによって、甲の提供する福祉サービスの利用者(障害者・高齢者・児童、以下、単に「利用者」という)の人権・権利の確保とアドボカシーの実現をはかり、そのことを通じて甲自らの福祉サービスの質の向上を目指すものとする。なお、本契約において『アドボカシー』とは、利用者の立場に立ち、利用者の意思表示を支援しあるいは代弁することによって、利用者の人権・権利の確保を目指す活動を意味するものとする。」という協働型オンブズマン活動です。

その協働のために、毎月訪問の度に行っている施設長・オンブズマン協力員との振り返りとは別に、甲の法人責任者たちと、乙のオンブズマン全員が、年に2回一堂に会して、半年間の活動のまとめを行い、単独の施設では解決できない法人としての課題について話し合いを行っています。

その会議の中で、S ネットが行っている「法人後見活動」の説明なども行いました。



2023年度第1回協働会議(2023年11月7日)



オンブズマン活動から

私たちオンブズマンは、一月に1回、複数のオンブズマンで契約施設に出向き、直接利用者の方とお会いしています。

そして、月に一度、オンブズマン全員が集まって、毎月の活動を報告し、意見を交換するオンブズマン会議を開いています。今回は、そのオンブズマン会議をご紹介します。

オンブズマン会議の中で行われる活動報告は、施設の訪問担当者が作成した報告書をオンブズマン全員が事前に読み込んだ上で意見交換します。コロナ禍でなかなか面談が出来なかった頃、報告書に施設の掲示物や行事などを写真で紹介するようになり、担当施設でなくても施設の様子がわかるようになりました。

利用者の思いを少しでも感じ取れるよう、オンブズマン同志でアイデアを持ち寄り、刺激を受け、地道に活動を続けています。

利用者さんの作業や日中活動の合間の時間に面談をしていますが、自閉症や知的・身体の重複障がいなどコミュニケーションの取り方の難しい方との面談は月1回訪問のオンブズマンにとってはハードルが高く、様々な工夫と失敗を会議で報告しあうことで、次回訪問の参考にしています。

〔コミュニケーションの工夫〕

・自閉症(脳の情報伝達機能の器質的障害といわれている)の方…自閉症の方々が来られ、それぞれに独自の方法(絵本・DVD・鉄道の話)でオンブズマンとの面談をしていけます。

一方的なコミュニケーションが多い中、最近、話し言葉を全く持たない方と「ココスのメニュー」を通じて、相互性のあるコミュニケーションを成立させ、お互いに通じ合った喜びを感じています。カタカナで書かれる「ハンバーグ」や「コカ・コーラ」の文字をひたすら声に出して読まされる事に飽きたオンブズマンがメニューの写真を用意してマッチングさせるようにしたところ、写真を指差してOMに書き取らせるという事が起き、「アッ」「アッ」という声、表情、仕草で意思を伝え、従わせる力に舌を巻いています。(E)

・トキングマットを使って…面談では話題になることが少ない日常の生活場面を、用意した絵カードをマットの上に整理して並べてもらうことで、好みや優先順位などを知ることができ、ご本人の「想いを見える化する」意思表示のツールの一つとなっています。



「好き」「きれい」の選びで「好き」のところへ置いたカードが、質問内容を変えて、「よくやる」「あまりやらない」の選びにすると「あまりやらない」の位置に置かれることがあり、日頃その人のWISHがどのくらい実現されているのかを知ることができました。(U)

・筆談…利用者（自閉症）の特徴のある字と内容から、本人が何に関心を持ちかわっているのか、想像力の試される筆談ですが、この2年ほどはオンブズマン側からも聞き出したいことを質問表にして作り、書き込んでもらっています。少しでも本人の気持ちに近づければと思います。(T)

高齢の施設で、耳の遠い方とのやり取りでは大きな声は負担になるので、ホワイトボードを用意し、文字にすることで質問や聞き取れなかった単語の確認に利用しています。(E)



ホワイトボードを使ってみて、感じたのは、マーカーで書いて、消しての繰り返しだと意外と時間がかかるし、消した後があまり綺麗ではないのです。社会福祉士の現場実習で、聴覚障害＋自閉症の利用者さんと接する機会があり、その時は「筆談ボード」(電子パッドともいう)を使っていました。専用のペンで書いて、ボードのボタンを押すと瞬時に消えるし、ご本人の意外な本音？が「書くこと」で表出しやすい様子でした。(N)

・昼食を一緒にとる…利用者の食事風景、職員の支援の工夫を拝見しています。

コロナ禍で中止だった昼食をご一緒しました。ある高齢男性は会う度に老化が進み心配していましたが食欲は十分で安心しました。また、別の利用者に職員が数種類の目薬を5分おきに点眼していました。食べる速度が極度に遅い方に職員が食べ物の位置を隅に寄せるとスプーンの動きが速くなりました。食後の洗面所にはいくつかの椅子が置かれ歯磨きの長い方や待つ方へ配慮されていました。また、昼休み後には体操とダンスがあり、全員の笑顔が見られました。(S)



「寿司キャラバン」特別注文メニューを利用者が見せてくれました

・季節の行事に参加…夏祭りやハロウィーン、クリスマスでは、利用者の作った飾りを飾りつけ、職員が工夫したゲームに利用者に参加して職員とのやり取りを楽しんでいる様子を拝見しています。普段と違う利用者を見ることができました。

職員が創作したゲームやレクリエーションの企画が目白押しという施設もあるようです。



ハエ叩きにマジックテープがついてあり、叩くと昆虫がくっついてくる



1997 年から始めた S ネットのオンブズマン活動ですが、その後、第三者委員会などいろいろな制度ができ、時代が変わってきていますが、「本人のもとに出向いて本人の声を聴く」「声を聴き、本人の立場に立ち切って考え、代弁する」という、基本の大切さは普遍なのではないかと思えます。現場に入って行って、その場の雰囲気や空気を敏感に感じるということも、本人のもとに出向くことによってできる事だと思えます。

利害関係の無い第三者であり、生活者としての市民感覚がある市民が、障がいのある人とコミュニケーションを取り理解を深めるという事から、地域や市民につながっていきます。

職員は、オンブズマンと話すことで「支援のヒントをつかむ」ということもあり、何気なく行っている支援が意味あることだと確認出来て、エンパワされるという事もあるそうです。

こんなオンブズマン活動に、あなたも参加してみませんか!

はみだしコラム

「アフガニスタン家族への支援の広がり」

団地にアフガニスタンのご家族が住み、夫と三人の子ども達と
黒いヘジャブ姿の若い母親は珍しい事でした。

二番目の娘さんが小学校の卒業式に袴を着たいと聞き、
担任の先生が理髪店に声を掛け、店では貸衣装を手配し、
朝6時半に店に来て貰い着付けて、



アフガニスタンの式服を着た両親と
無事卒業式に参加し、
費用を抑える為に店では校門で迎え、
店で着替えました。

関係者の皆さんの温かな連携が嬉しい事でした。(S)

賛助会員 入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。
賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

◇賛助会員 ・個人 年額 ー□ 1,000円 (ー□以上)

・法人 年額 ー□ 5,000円 (ー□以上)

◇ご入会の方法: 郵便為替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号: 00210-9-75496

口座名義人: NPO 法人 S ネットオンブズマン

既にご賛同くださいました皆様には、厚く御礼申し上げます。

発行: 2024年4月

